

近森病院 作業療法科

科長 田村美穂

概要

2020年の作業療法人員は4月に3名の新入職員を迎え28名体制であった。6月・9月・12月に計4名の職員が退職、12月に1名の異動で加わり12月末時点には25名となった。

患者在院日数の短縮化や病床稼働率が変動する中、スタッフの書類作成など間接業務の負担が課題であった。そのため、帳票類の見直しを行い間接業務に費やす時間の短縮を図りながら、入院早期より個々の患者に対する適正単位数の維持に努めた。

教育面では新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、院内外の研修会や勉強会、学術発表等の開催が減ったことで学習機会の確保が難しかったが、後半にはオンライン環境を整え参加が可能となりつつある。PDCAサイクルを意識した訓練内容や目標設定の指導に加え、職員の個別年間目標を定め文献抄読や、実地訓練で指導するなど質の担保に努めた。

業務実績

年間総処方数は2,311件と前年度に比べ338件の増加となった。月別新規処方数は図1に示す通りで、月平均192件となった。

入院・外来月別延べ実施件数を図2に示す。月別延べ実施件数（入院）は平均3,218件（前年平均3,127件）であった。月別延べ実施件数（外来）は平均313件（前年平均367件）となった。

疾患別リハの月別延べ総単位数を図3に示す。月平均は脳血管疾患3,008単位、運動器疾患2,576単位、廃用症候群1,200単位、呼吸器疾患480単位、心大血管疾患485単位であった。

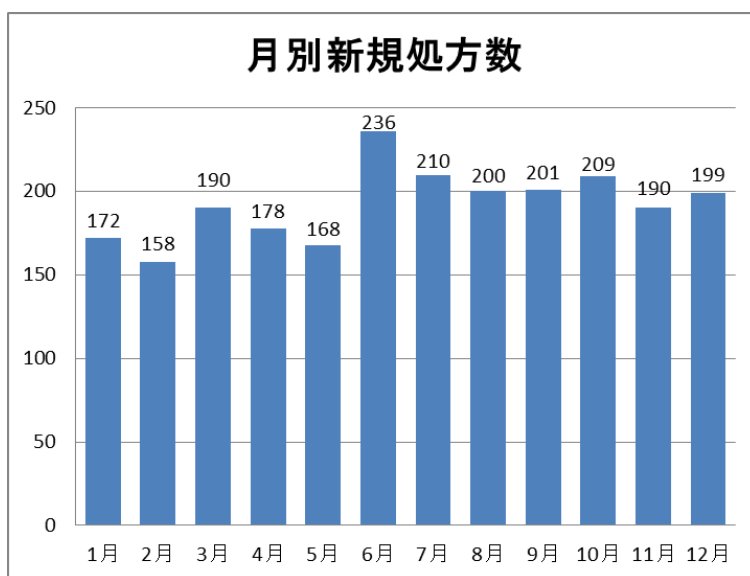


図1 月別新規処方数

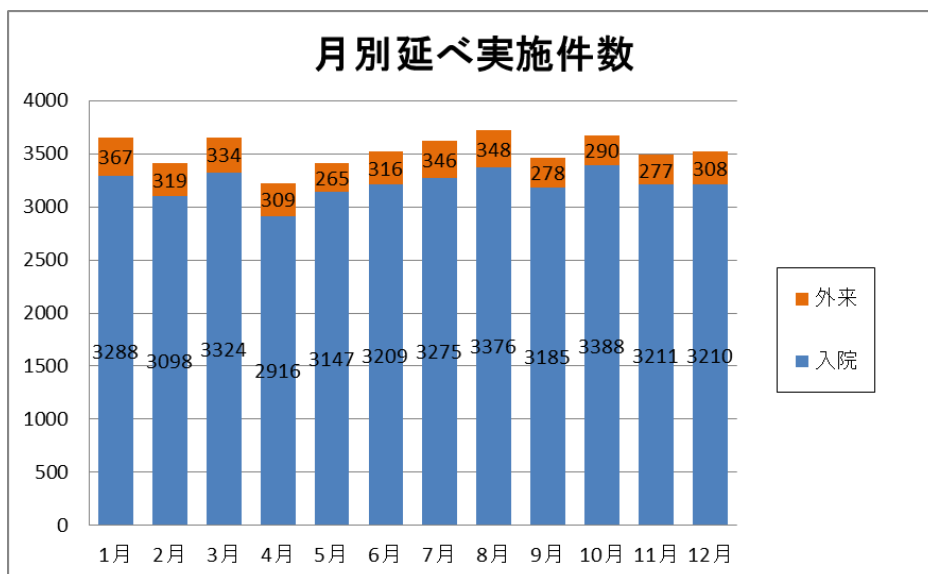


図2 入院・外来月別述べ実施件数

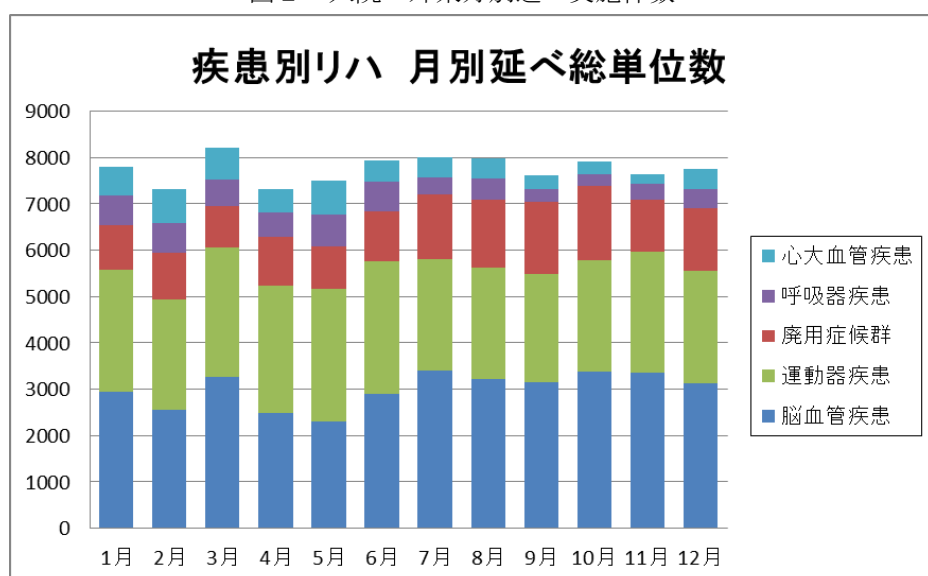


図3 疾患別リハ月別述べ総単位数

終わりに

これまで OT 科は人員の増加とともに作業療法の対象者や領域の拡大をすすめてきたが、2021 年度は管理体制の変更と人員数の変動が予測される。しかしながら、早期からセルフケア等の活動を通じた ADL・IADL の評価の実施や改善を図り、多職種と情報共有して退院までの期間短縮が行えるように努めていきたい。また精神・認知面、身体面など多様な症状や生活背景に対応できるスタッフの教育を図り、地域住民を支える急性期病院での作業療法の役割を果たしていきたいと考える。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
下肢挙上型車椅子からの転倒防止に対する取り組み	田村美穂	第 54 回日本作業療法学会 2019	9 月 25 日 Web 開催